

# 令和6年度 第2回 木曽川水系流域委員会 【木曽川水系河川整備計画の点検】

- ① 整備計画の点検
- ② 事業を進める上での懸案と対応
- ③ その他の取組事例

令和7年3月3日

国土交通省 中部地方整備局

木曽川上流河川事務所、木曽川下流河川事務所

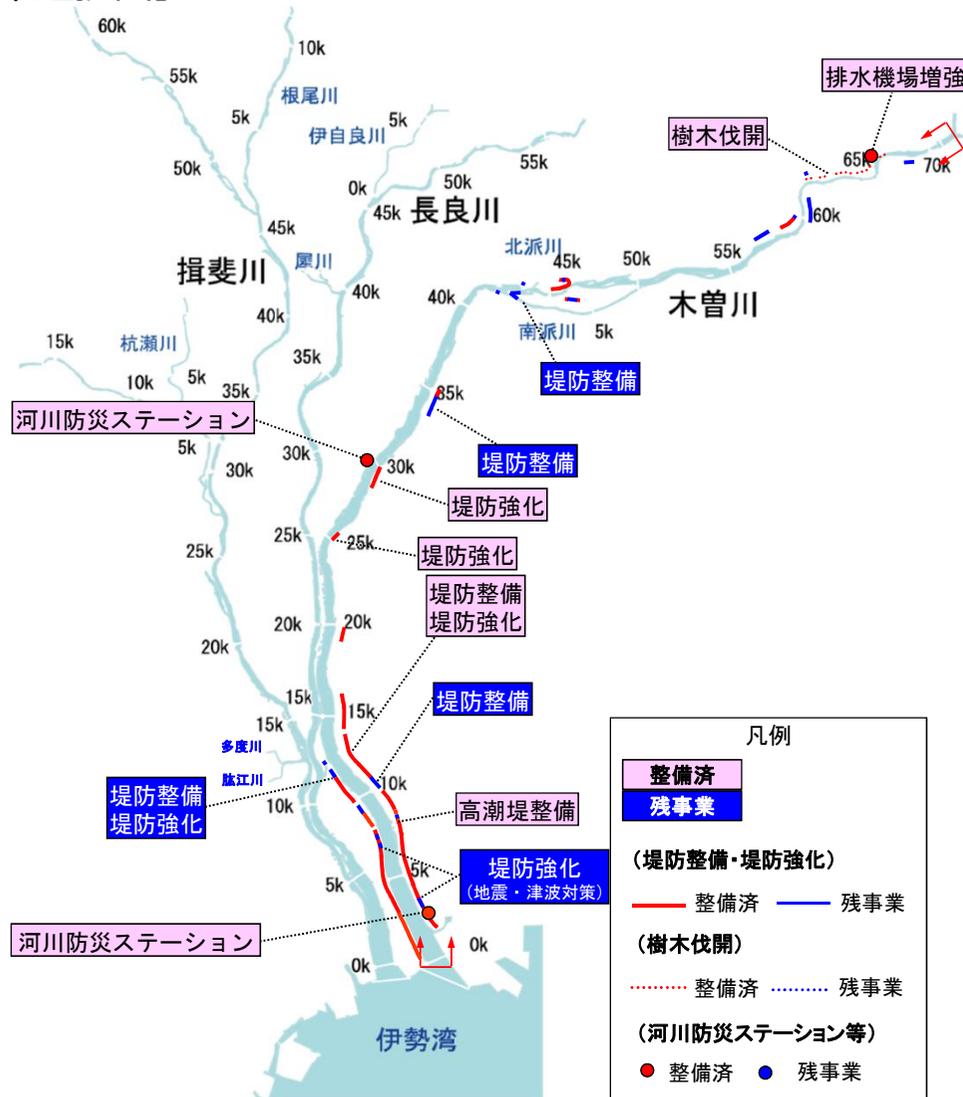
# ①整備計画の点検

- 河川整備計画に計上されている直轄河川改修事業の進捗率は、事業費ベースで約70%です。  
(前回再評価審議時点【令和元年度】では約53%)

## 整備計画の主な整備内容

事業期間：平成20年～令和19年

### 【事業進捗図】



### 【主な事業実施状況】

整備項目	事業全体	整備済み	残事業
堤防整備	21.3km	14.3km	7.0km
高潮堤整備	3.9km	3.5km	0.4km
堤防強化※1	49.6km	21.0km	28.6km
河川防災ステーション	2箇所	2箇所	0箇所
排水機場増強	1箇所	1箇所	0箇所
樹木伐開	7ha	7ha	0ha
危機管理型ハード対策※2	4.7km	4.7km	0.0km

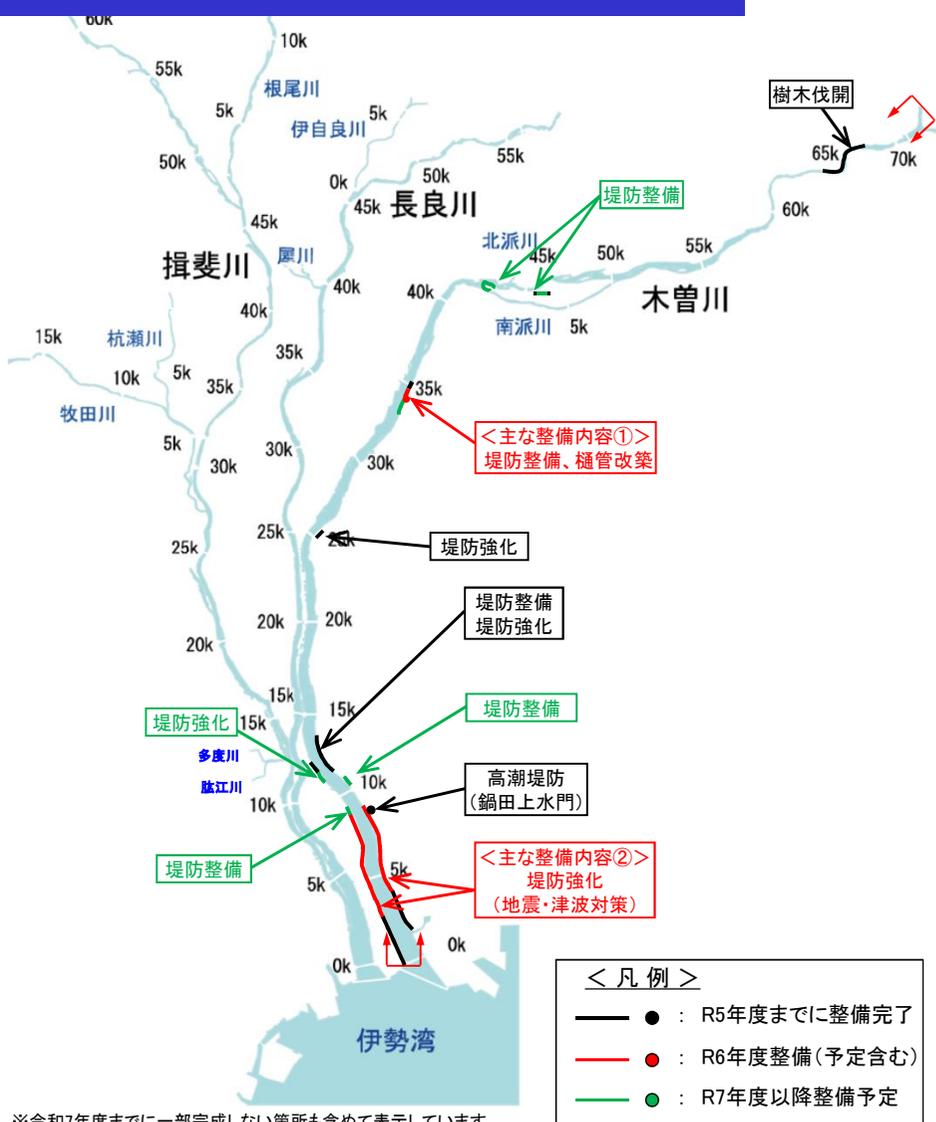
令和7年3月末予定

※1 堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む

※2 道路天端の保護、堤防裏法尻の補強等

- 昭和58年9月洪水と同規模の洪水を安全に流下させるため、流域全体の治水安全度の早期向上を念頭に、中下流部の堤防整備等を実施しています。
- また、河口部においては、近年発生が懸念されている大規模地震に備え、地震・津波対策を実施しています。

## 令和2年度～令和7年度の主な整備位置図

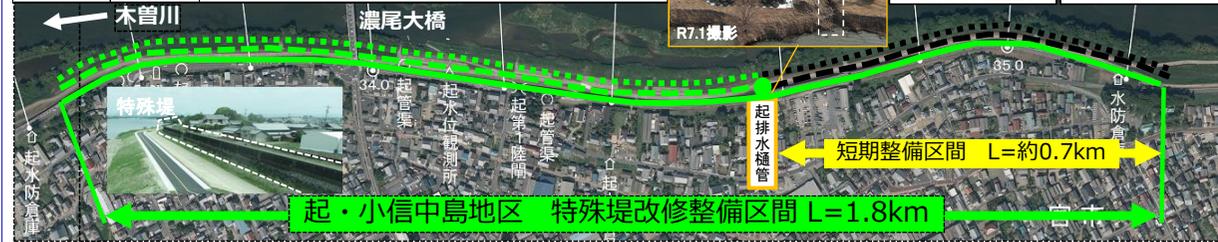
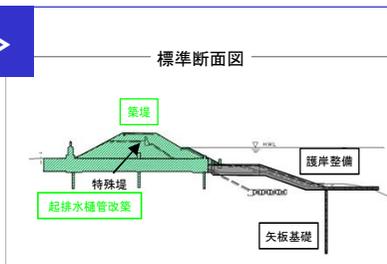


※令和7年度までに一部完成しない箇所も含めて表示しています。  
※令和7年2月末時点の見込みであり、今後変更する可能性があります。

## 主な整備内容 ① < 堤防整備【起・小信中島地区】 >

- 木曽川起・小信中島地区の堤防は、パラペット形状の特殊堤で、堤防高(0.3m程度)及び断面が不足しており、老朽化も進行していることから、治水安全度向上のため堤防の改修を行うこととしています。
- 令和7年度までに上流端～起排水樋管まで(約0.7km)の堤防整備を完了させることを目標に、令和6年度は起排水樋管の改築を実施しています。

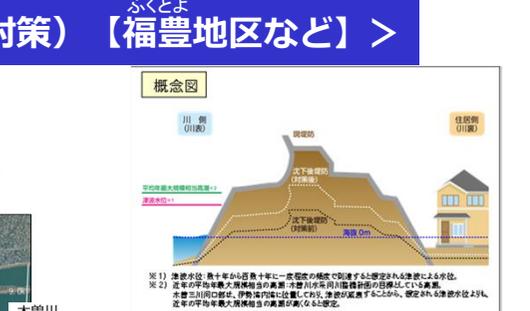
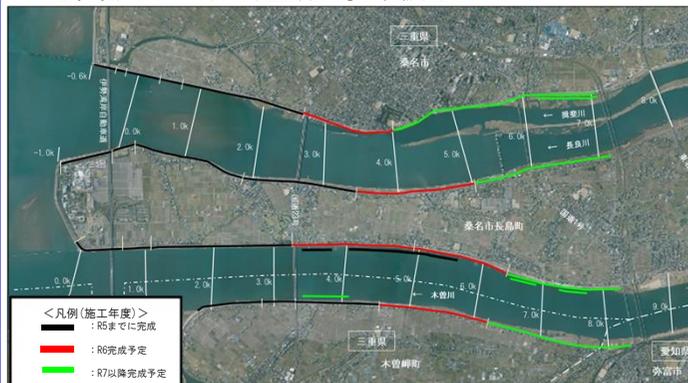
工種	事業量	進捗率
矢板基礎	1.8km	35%
護岸	1.8km	35%
築堤(嵩上げ)	1.8km	0%
樋管改築	1式	0%(起排水樋管実施中)



< 凡例(工種) >		< 凡例(施工年度) >	
■	矢板基礎	■	R5までに完成
■	高水敷整備	■	R6完成予定
■	築堤護岸	■	R7以降完成予定

## 主な整備内容 ② < 堤防強化(地震・津波対策)【福豊地区など】 >

- 地震による沈下の影響が大きい高潮区間において、堤防の天端盛土等を緊急対策として実施しています。
- 緊急対策を行っても地震後の堤防の沈下等が生じた状態で、近年の平均年最大規模相当の高潮による浸水被害の恐れのある区間について、地盤改良等を実施します。



木曽川		
工種	事業量	進捗率
地盤改良	3.71km	55%
天端盛土	14.62km	42% 76%

長良川		
工種	事業量	進捗率
地盤改良	対策必要区間なし	
天端盛土	4.62km	13% 56%

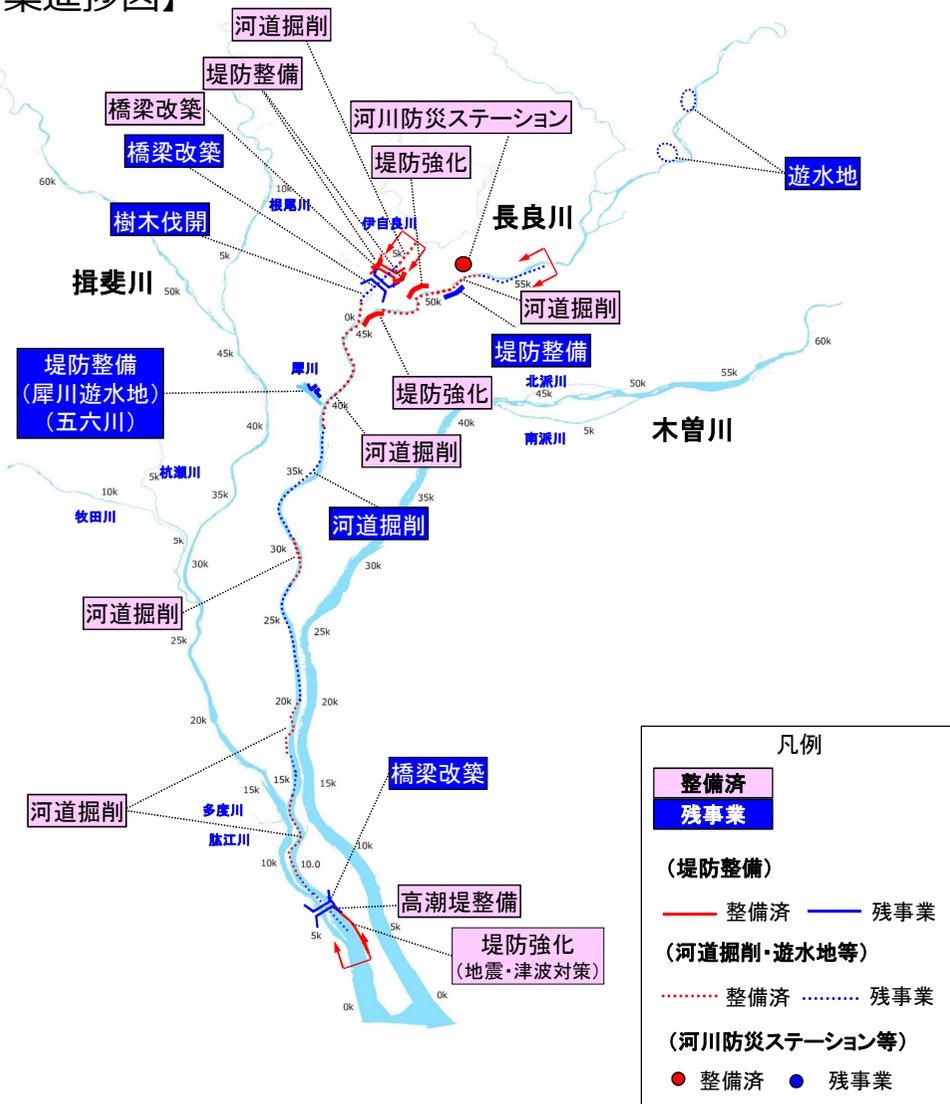
揖斐川		
工種	事業量	進捗率
地盤改良	1.00km	0%
天端盛土	11.73km	61% 72%

- 河川整備計画に計上されている直轄河川改修事業の進捗率は、事業費ベースで約48%です。  
(前回再評価審議時点【令和元年度】では約33%)

## 整備計画の主な整備内容

事業期間：平成20年～令和19年

### 【事業進捗図】



### 【主な事業実施状況】

整備項目	事業全体	整備済み	残事業
堤防整備	4.0km	0.8km	3.2km
高潮堤整備	0.3km	0.3km	0km
堤防強化※1	11.8km	8.0km	3.8km
河川防災ステーション	1箇所	1箇所	0箇所
河道掘削	1,763千m <sup>3</sup>	1,607千m <sup>3</sup>	156千m <sup>3</sup>
橋梁改築	3橋	1橋	2橋
遊水地※2	2箇所	—	2箇所

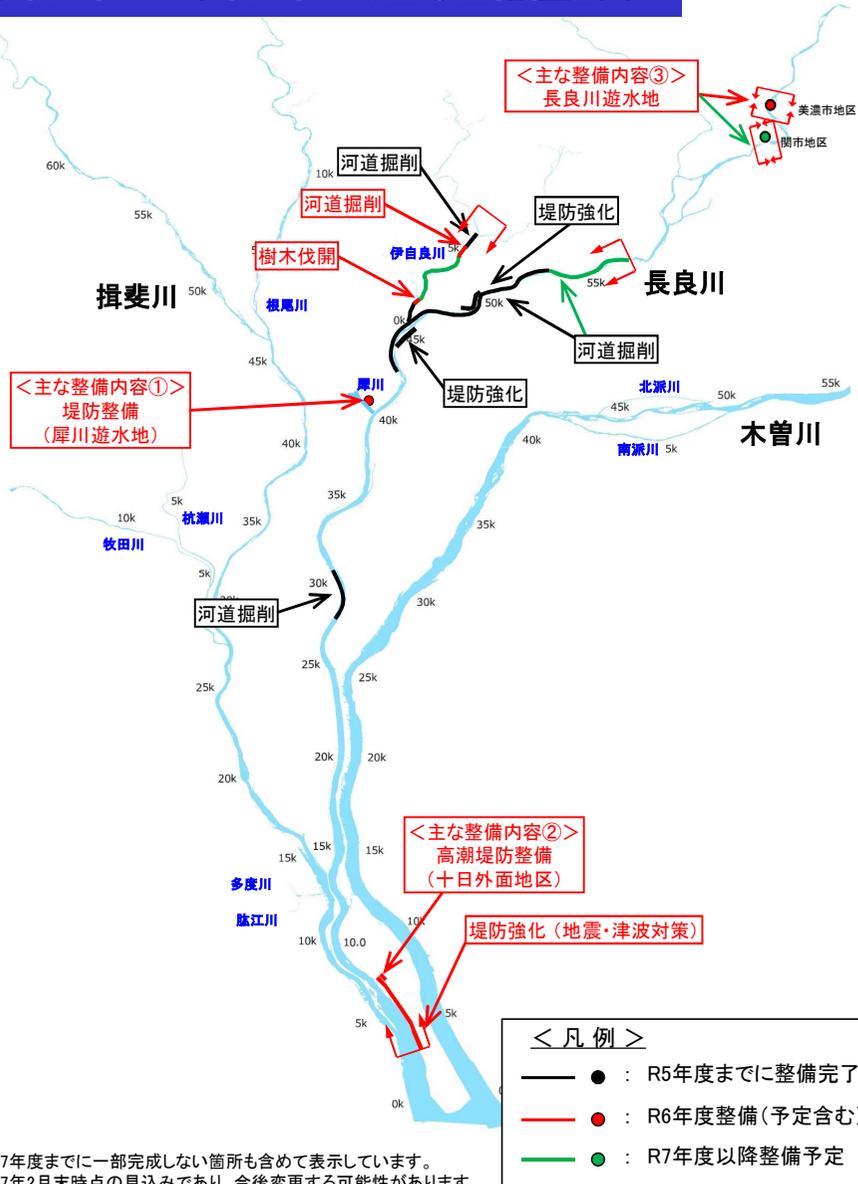
令和7年3月末予定

※1 堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む

※2 遊水地の詳細については、関係機関等と十分な調整・連携のもと決定していく。

- 平成16年10月洪水を安全に流下させるため、流域全体の治水安全度の早期向上を念頭に、長良川遊水地の整備や堤防整備等を実施しています。

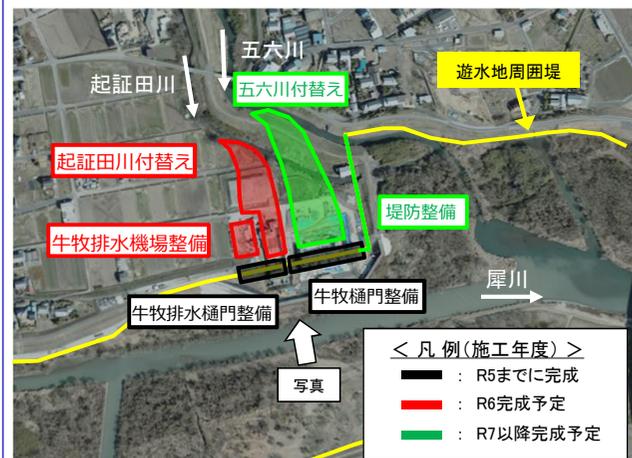
## 令和2年度～令和7年度の主な整備位置図



※令和7年度までに一部完成しない箇所も含めて表示しています。  
 ※令和7年2月末時点の見込みであり、今後変更する可能性があります。

## 主な整備内容 ① <堤防整備 (犀川遊水地) 【五六川地区】>

- 犀川遊水地事業の一環として、五六川地区において、牛牧排水機場・牛牧排水樋門・牛牧樋門の整備、五六川および起証田川の付替えを実施しています。
- 昨年に引き続き牛牧排水機場整備および起証田川への付替えを実施しており、いずれも令和7年3月末に完了予定です。



工種	事業量	進捗率
排水機場整備	1式	0%(実施中)
樋門整備	1式	完了
五六川付替え	1式	
起証田川付替え	1式	0%(実施中)
堤防整備	1式	

## 主な整備内容 ② <高潮堤防整備 【十日外面地区】>

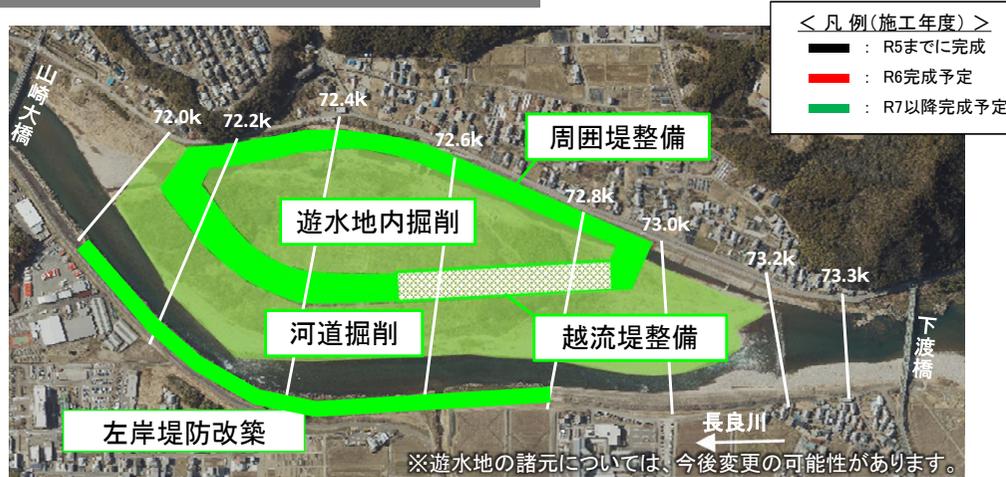
- 堤防高が不足する区間の高潮堤防整備を実施しています。
- 十日外面地区においては、長良川、揖斐川にかかる伊勢大橋の整備に併せて、高潮堤防の整備を実施しており、令和7年3月末に完了予定です。



工種	事業量	進捗率
高潮堤防整備	1式	完了

## 主な整備内容③長良川遊水地

### <長良川遊水地【美濃市地区】>



<凡例(施工年度)>  
 黒 : R5までに完成  
 赤 : R6完成予定  
 緑 : R7以降完成予定

- 遊水地事業による効果や整備内容等についてご理解いただくため、地元住民を対象に説明会を実施し、令和6年度から左岸堤防改築に係る工事に着手しました。
- 今後は、遊水地本体の用地調査に向けた調整を行う予定です。

#### <令和6年度 地元説明会開催状況>

令和6年5月15日	中有知地区	令和6年7月24日	下渡地区
令和6年7月4日	横越地区	令和6年8月1日	藍見地区

### <長良川遊水地【関市地区】>



<凡例(施工年度)>  
 黒 : R5までに完成  
 赤 : R6完成予定  
 緑 : R7以降完成予定

- 令和7年1月に、遊水地事業による効果や整備内容等についてご理解いただくため、地元住民を対象とした説明会を初めて実施しました。
- 周囲堤の用地取得に向けて、関係者と協議しています。

#### <令和6年度 地元説明会開催状況>

令和7年1月18日	池尻地区
-----------	------

## 第3回長良川遊水地河川環境調査検討会

- 第3回長良川遊水地河川環境調査検討会を開催し、事業箇所における個別調査の実施結果、また重要種の移植について委員へ報告しました。

#### 【主な意見】

- 繁殖や産卵場という視点を含めて環境の保全・創出を検討すること。
- 上流工事による濁水等の影響により、貴重種の生息環境が変化するため、工事前後においてモニタリングを行うこと。
- オオキンケイギク等が生息していた箇所の土壌の再利用には注意すること。

日時：令和6年11月25日(月) 13:00～15:00

場所：木曽川上流河川事務所

#### 《委員》

藤田 裕一郎 岐阜大学名誉教授 (委員長)  
 西條 好迪 (一財)自然学総合研究所理事・顧問  
 森 誠一 岐阜協立大学地方創生研究所教授

#### 《オブザーバー》

岐阜県 県土整備部河川課 河川課長  
 関市 基盤整備部土木課 土木課長  
 美濃市 建設部土木課 土木課長



第3回検討会の様子

- 河川整備計画に計上されている直轄河川改修事業の進捗率は、事業費ベースで約74%です。  
(前回再評価審議時点【令和元年度】では約51%)

## 整備計画の主な整備内容

事業期間：平成20年～令和19年

### 【事業進捗図】



### 【主な事業実施状況】

整備項目	事業全体	整備済み	残事業
堤防整備	67.6km	46.5km	21.1km
高潮堤整備	1.8km	1.7km	0.1km
堤防強化※1	137.5km	34.6km	102.9km
河川防災ステーション	2箇所	2箇所	0箇所
排水機場増強・新設	6箇所	2箇所	4箇所
河道掘削	1,887千m <sup>3</sup>	1,453千m <sup>3</sup>	434千m <sup>3</sup>
橋梁改築	2橋	1橋	1橋
危機管理型ハード対策※2	10.1km	10.1km	0.0km

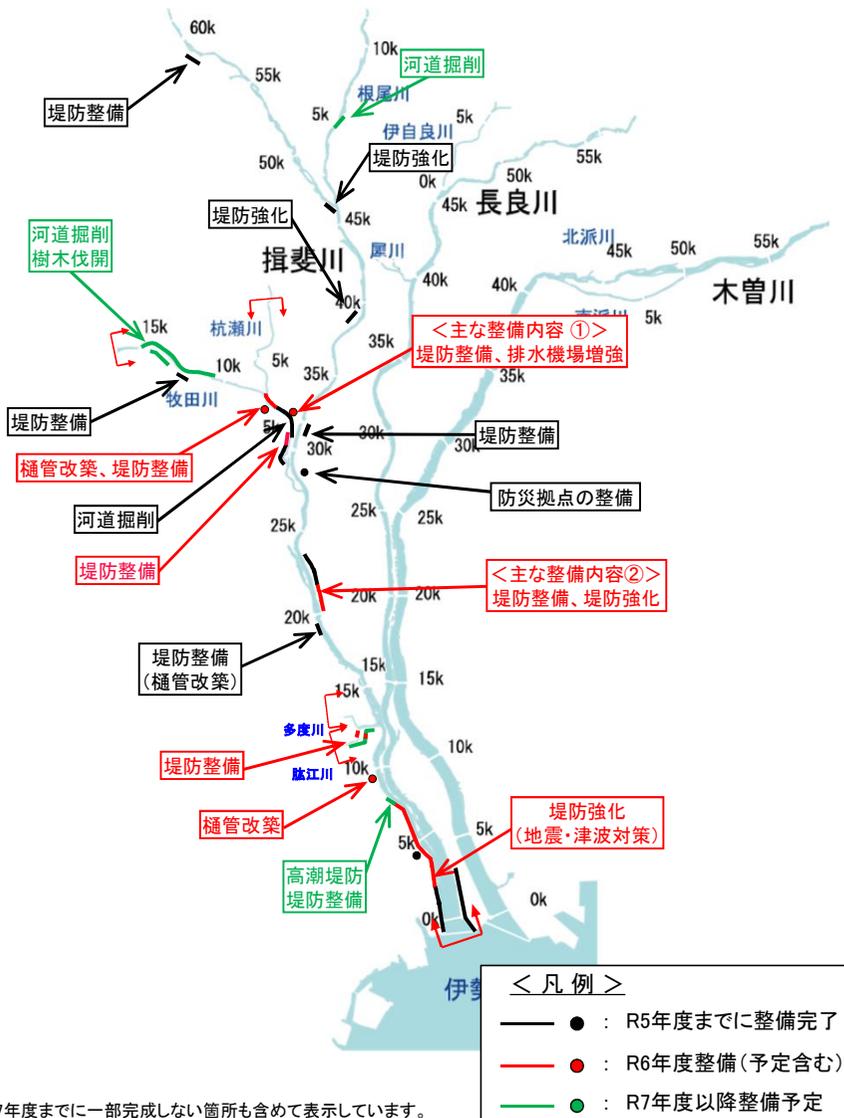
令和7年3月末予定

※1 堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む

※2 道路天端の保護、堤防裏法尻の補強等

- 昭和50年8月洪水及び平成14年7月洪水を安全に流下させるため、流域全体の治水安全度の早期向上を念頭に、堤防整備等を実施しています。
- 河口部においては、近年発生が懸念されている大規模地震に備え、地震・津波対策を実施しています。

## 令和2年度～令和7年度の主な整備位置図

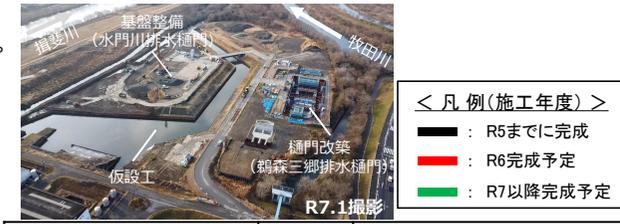
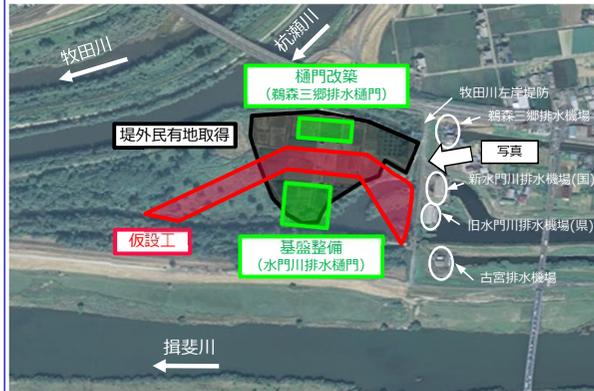


※令和7年度までに一部完成しない箇所も含めて表示しています。  
 ※令和7年2月末時点の見込みであり、今後変更する可能性があります。

## 主な整備内容 ①

### <堤防整備・木曽川上流特定構造物改築事業(新水門川排水機場)【横曽根地区】>

- 木曽川上流特定構造物改築事業(新水門川排水機場)は、老朽化が著しい新水門川排水機場、旧水門川排水機場とあわせて、高さや断面が不足している牧田川左岸堤防の一体的な整備を実施しています。
- 令和3年度より本事業に着手しており、令和6年度は昨年に引き続き鶴森三郷排水樋門の改築や水門川排水樋門の基盤整備等を実施しております。なお、令和7年3月末までに仮設工が完了予定です。



工種	事業量	進捗率
堤外民有地取得	1式	完了
仮設工	1式	完了
基盤整備(鶴森三郷排水樋門)	1式	完了
基盤整備(水門川排水樋門)	1式	0%(実施中)
樋門・樋管	1式	0%(鶴森三郷排水樋門実施中)
排水機場	1式	0%

## 主な整備内容 ②

### <堤防整備、堤防強化【本阿弥新田地区】>

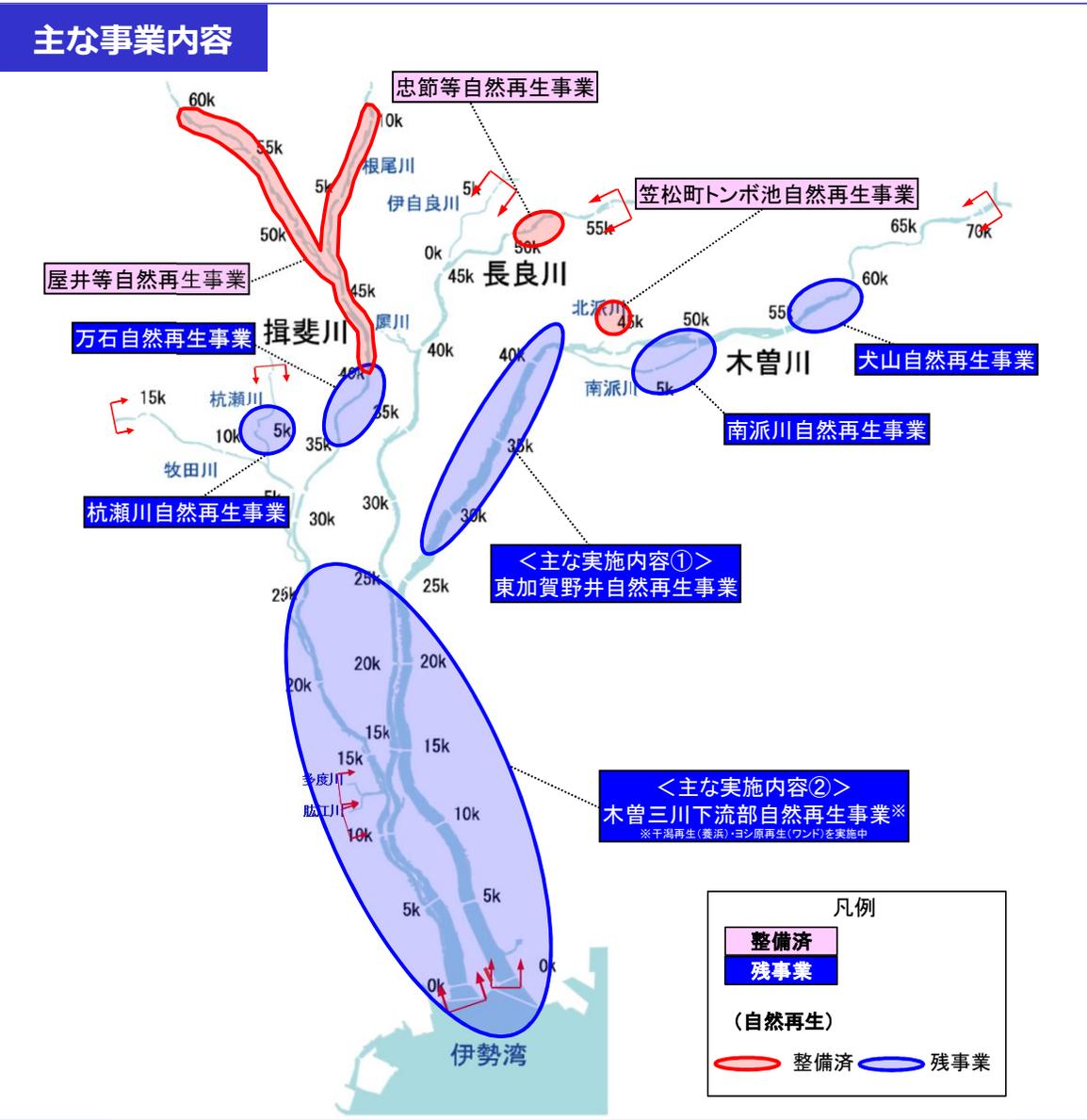
- 平成27年度より本阿弥新田地区の堤防整備、堤防強化工事を行っています。
- 令和3年度までに高水護岸の整備が完了し、令和6年12月に堤防の高上げが完了しました。



工種	事業量	進捗率
高水護岸	3.96km	完了
築堤	3.96km	66% 完了
川裏浸透対策	3.96km	29%



- 木曽三川の良好な自然環境の保全を図りつつ、より良い環境を創出するために、ワンド等水際湿地や礫河原等の自然再生事業を実施しています。
- 環境整備事業の進捗率は、事業費ベースで約85%です。（前回再評価時点【令和3年度】では約75%）



### 主な実施内容 ①

たまのい  
＜東加賀野井自然再生事業【玉ノ井地区】＞

事業進捗率：約96%  
（事業費ベース、R6見込みを含む）

- 木曽川中流部では、樹林化や底泥の堆積により劣化が進んだワンド環境の改善に向け、令和6年度は玉ノ井地区等において、水際部の樹木伐開・掘削を実施しています。

＜木曽川左岸38.0k付近(玉ノ井)＞

工事着手前

R3.12撮影

工事施工中

R6.12撮影

### 主な実施内容 ②

うらやす  
＜木曽三川下流部自然再生事業【浦安地区】＞

事業進捗率：約93%  
（事業費ベース、R6見込みを含む）

- 木曽三川下流部では、豊かで多様な水際環境を再生するため、水制工及び養浜による干潟の再生等を行っています。
- 令和6年度は、浦安地区において、干潟再生を実施しています。

＜揖斐川左岸-0.6k(浦安)＞

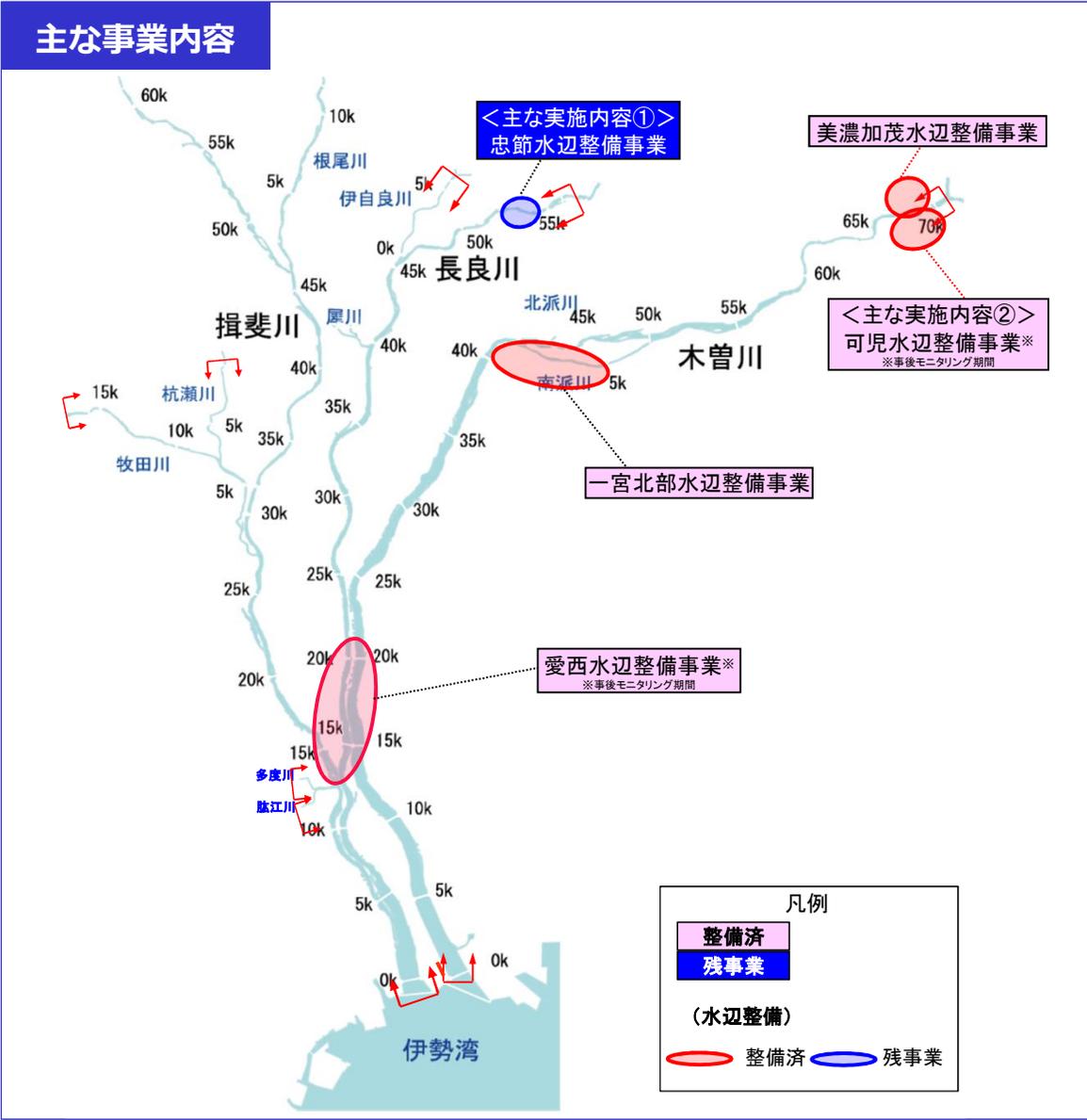
工事着手前

H23.7撮影

工事完了後

R6.7撮影

- 木曽三川の歴史、自然、文化等を活かし、水辺の利用を促進するために水辺整備事業を実施しています。
- 環境整備事業の進捗率は、事業費ベースで約85%です。（前回再評価時点【令和3年度】では約75%）



### 主な実施内容 ① ぎふ

#### <忠節水辺整備事業【岐阜市】>

事業進捗率: 約72%  
(事業費ベース、R6見込みを含む)

- 令和3年3月に登録された「ぎふ長良川鶴飼かわまちづくり計画」に基づき、砂礫河原広場及び坂路、階段護岸等を行っています。
- 令和6年度は周囲の景観と調和した坂路整備を実施しています。

工事着手前

R6.10撮影

現況写真

R7.2撮影

R6実施

### 主な実施内容 ② かに

#### <可児水辺整備事業【可児市】>

事業進捗率: 100%

- 平成29年3月に登録された「可児市かわまちづくり基本計画」に基づき、階段護岸、堤防天端舗装等を行い、令和3年度に事業が完了しています。
- 令和4年度からモニタリングを実施しており、イベントや地元住民の憩いの場として利用されています。

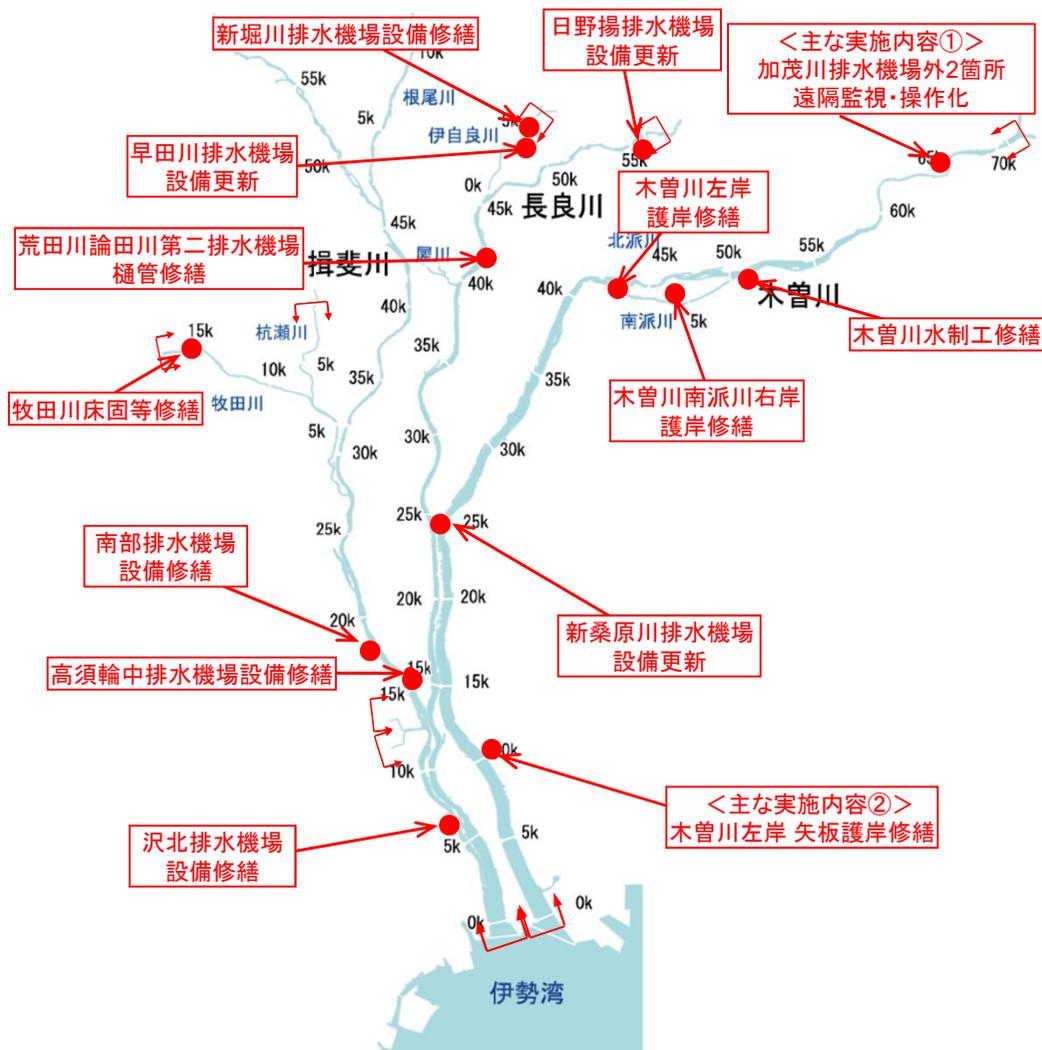
工事完了後

R4.3撮影

イベントの様子

- 河川維持管理計画に基づき、河川巡視、河川管理施設点検等による状況把握を行い、河川管理に支障となる不法行為への対策や河川管理施設の機能維持のため維持修繕工事、施設の補修・更新等の対応を実施しています。
- 令和6年度は、排水機場・樋門設備修繕や堤防の矢板護岸修繕等に加え、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策として、排水機場の遠隔監視・操作化を導入しています。

## 令和6年度 主な河川管理施設の維持管理（補修・修繕等）位置図



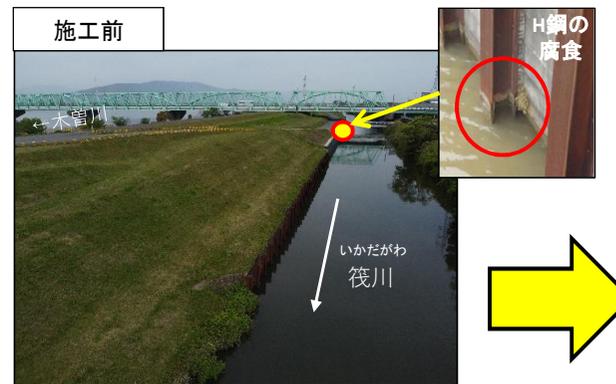
## 主な実施内容① <遠隔監視・操作化【加茂川排水機場外】>

- 排水機場の遠隔監視・操作化を導入することで施設操作の高度化を図り、緊急時においても排水機場を確実に操作できるよう整備を進めています。
- 令和6年度は加茂川排水機場外2箇所（両満川排水機場、平野井川排水機場）において導入しており、令和7年3月末に完了予定です。



## 主な実施内容② <矢板護岸修繕【木曽川】>

- 木曽川左岸の弥富市五明地先の堤防川裏は筏川が流れしており、木曽川左岸堤としての土留めの役割と筏川の耐侵食機能としての役割をもった護岸を整備しています。
- 当該箇所は護岸の腐食が進行し、土留めとしての機能が低下しているため、防食対策を実施した鋼矢板を施工し、施設の安全性を確保する修繕工事を実施しています。



## ②事業を進める上での懸案と対応

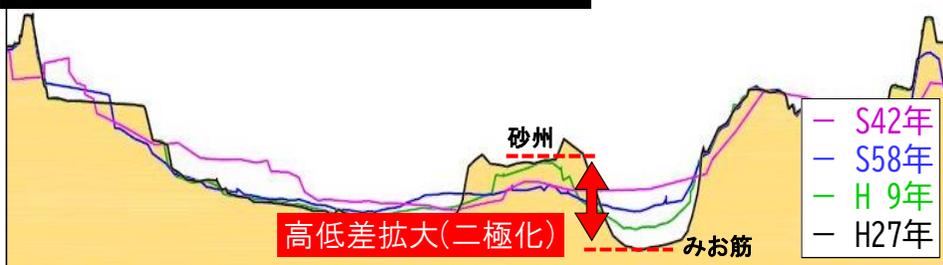
# 河道の二極化対策の試行 1/2

- 木曽川水系では、砂州とみお筋の河床の高低差が過度に大きくなる「河道の二極化」が顕在化していますが、二極化が進行すると、次のような悪影響が生じるものと想定されます。

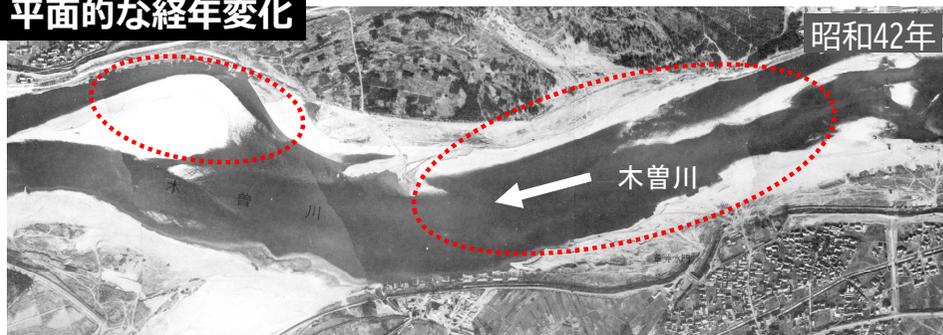
- ①砂州の樹木繁茂が進行し、砂礫環境が消失するとともに、洪水の流下を阻害
- ②みお筋が過度に深掘れし、構造物が不安定化
- ③河床の砂・玉石が流出するなど、多様性に富んだ水辺環境が失われ、動植物の生息・生育環境が悪化

## 河道の二極化の進行

### 横断的な経年変化（木曽川51.4k）

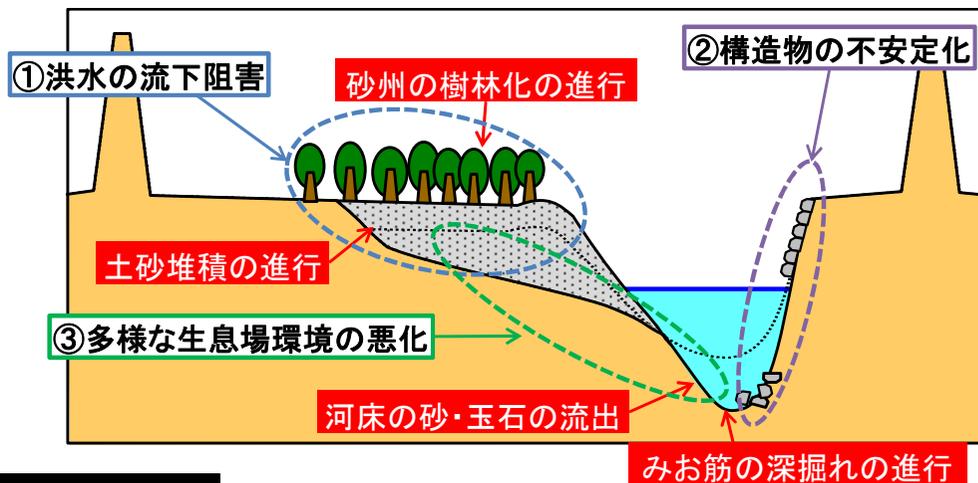


### 平面的な経年変化

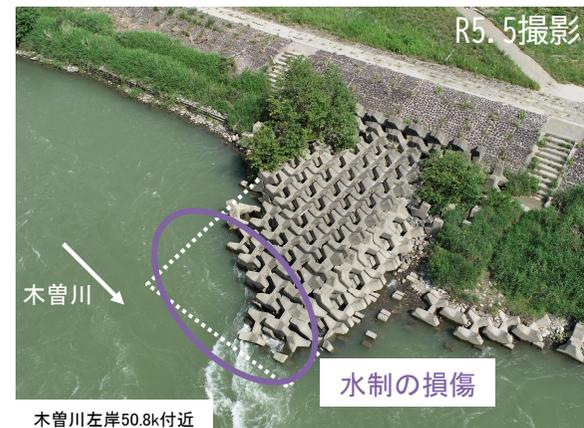


## 河道の二極化の進行による影響（例）

### 二極化による河道への影響イメージ



### 構造物の不安定化

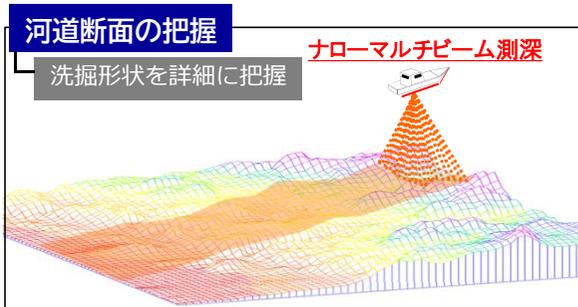


- 二極化の傾向が顕著な木曽川を中心に、樹木伐開や河道掘削前後のみお筋の変化や補充した玉石の移動状況等を把握するモニタリングを実施しながら緩和に向けた対策を試行しています。

## 【木曽川】 二極化対策の試行箇所（令和5年度～令和6年度）

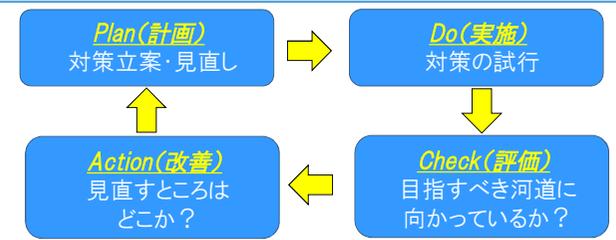


## モニタリングの実施（一例）



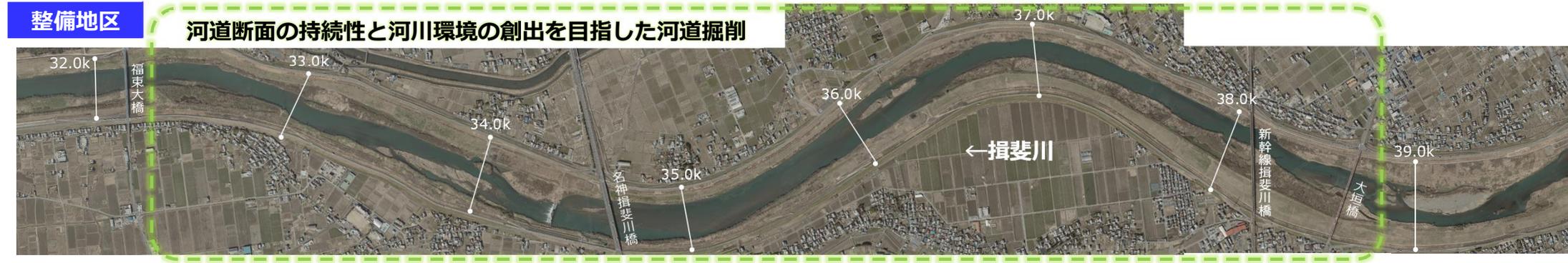
## PDCAサイクルの実施（予定）

- 自然の営力を活用した二極化対策を進めていきますが、必ずしも求める結果になるとは限りません。
- そのため、目指すべき河川のすがたの形成に向け、PDCAサイクルに基づき、二極化対策を進めていきます。



# 河道断面の持続性と河川環境の創出を目指した河道掘削

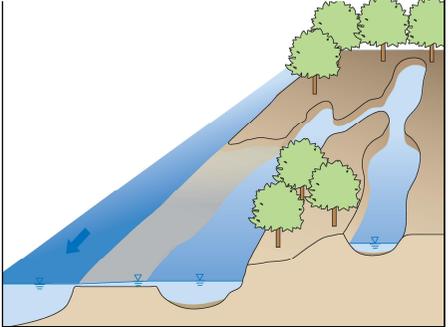
- 揖斐川においては、ワンドが数多く存在しますが、閉鎖性ワンドが多く、また底泥の堆積によりワンドが劣化しています。
- そのため、河道の持続性を確保しつつ実施する流下能力の確保、保持に向けた河道掘削、樹木伐開に合わせ、ワンドを含めた湿地環境の保全・創出を図っていきます。
- 令和6年度までに整備地区・整備パターン、基準とする掘削高やモニタリング計画等を検討し、令和7年度から順次河道掘削を実施する予定です。



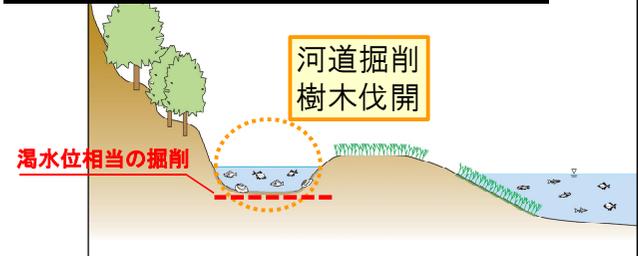
## 地区特性を踏まえたワンドの保全・創出パターン

**整備パターンⅠ**  
多様なワンド地形を生かした整備

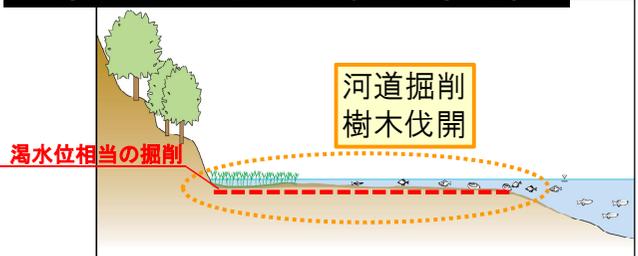
多様なワンド地形、水際の複雑さ、水深分布の多様性などを保全・創出



**整備パターンⅡ**  
流下能力の拡大と合わせた水路型ワンドの整備



**整備パターンⅢ**  
流下能力の拡大と合わせた浅瀬型ワンドの整備



## 対策の考え方

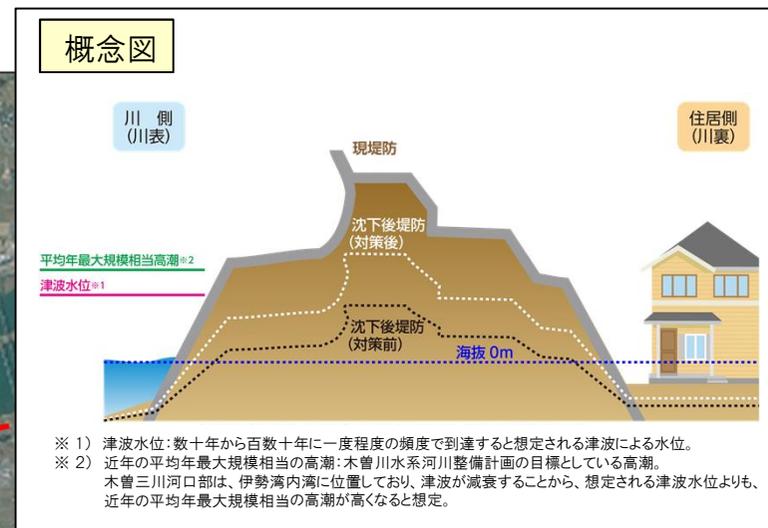
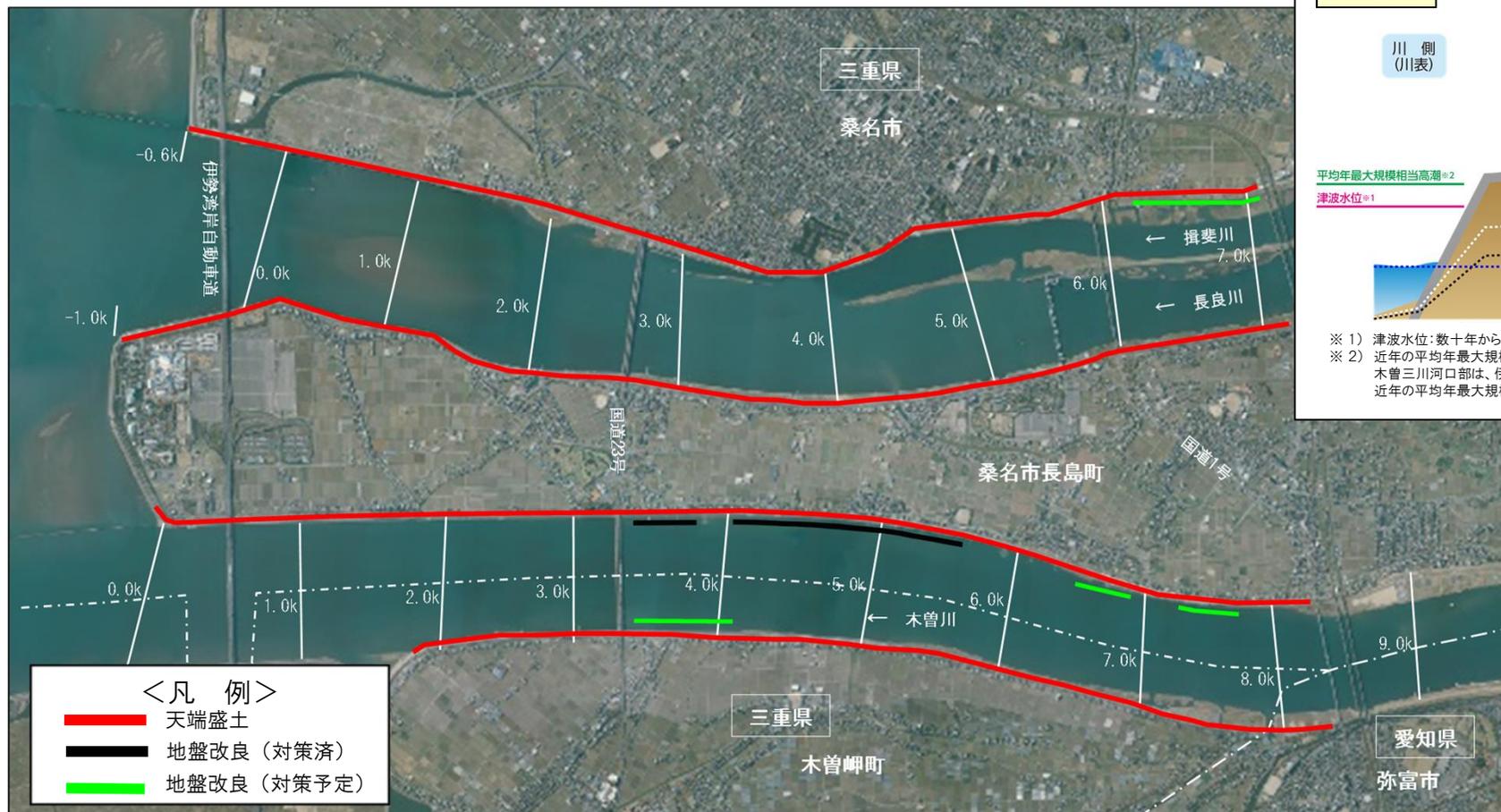
- 【水位低下対策】**
- 流下能力を確保するため、河道掘削+樹木伐開を実施
  - 掘削敷高は、河道断面の持続性を考慮し、濁水位相当
- 【河川環境の保全・創出】**
- ワンド等水際湿地の保全・創出

## 施工後時間経過

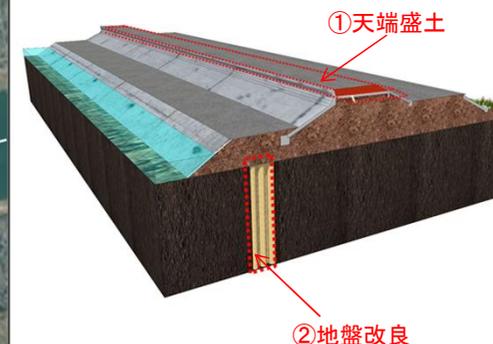
- 施工後の微地形の形成（水際の複雑さ、水深分布の変化）、時間経過に応じて底質変化によるタナゴ類や二枚貝類の生息場となる多様なワンド環境の形成
- 流下能力の維持、樹木再繁茂の抑制

- 木曽三川河口部では、木曽川水系河川整備計画に基づき、将来にわたって考えられる最大級の強さを持つ地震動による液状化等で堤防の沈下等が生じた状態で、近年の平均年最大規模相当の高潮での浸水による被害及び施設計画で対象としている津波による被害の恐れのある区間について、必要な対策を実施しています。
- 施設計画の津波による被害の恐れのある区間については、**令和4年1月に対策が完了**しております。
- 近年の平均年最大規模相当の高潮での浸水による被害の恐れのある区間については、必要な対策（①天端盛土、②地盤改良）を実施しており、天端盛土による対策が令和7年度に完了する予定です。
- 今後は、地盤改良が必要な区間について、コスト縮減を考慮した具体的な対策工法の検討等を行う予定です。

## 河川整備計画における工事实施（予定）箇所図



## 対策のイメージ



## ③その他の取組事例

- これまで木曽川中流域市町では、「かわまちづくり支援制度」の活用により水辺の拠点が整備されてきております。また一方で、国を含めた木曽川沿川関係機関が連携して自転車道・遊歩道の整備を進めています。
- この取組みをさらに充実させるため、新たに「木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり協議会」を設立し、サイクリングロード等の整備による広域的なネットワークの形成を図り、木曽川沿川の水辺の拠点整備・活用を更に推進します。

## コンセプト

● 地域資源を活用した賑わい拠点を自転車で繋ぎ、拡げることで地域全体の魅力を向上

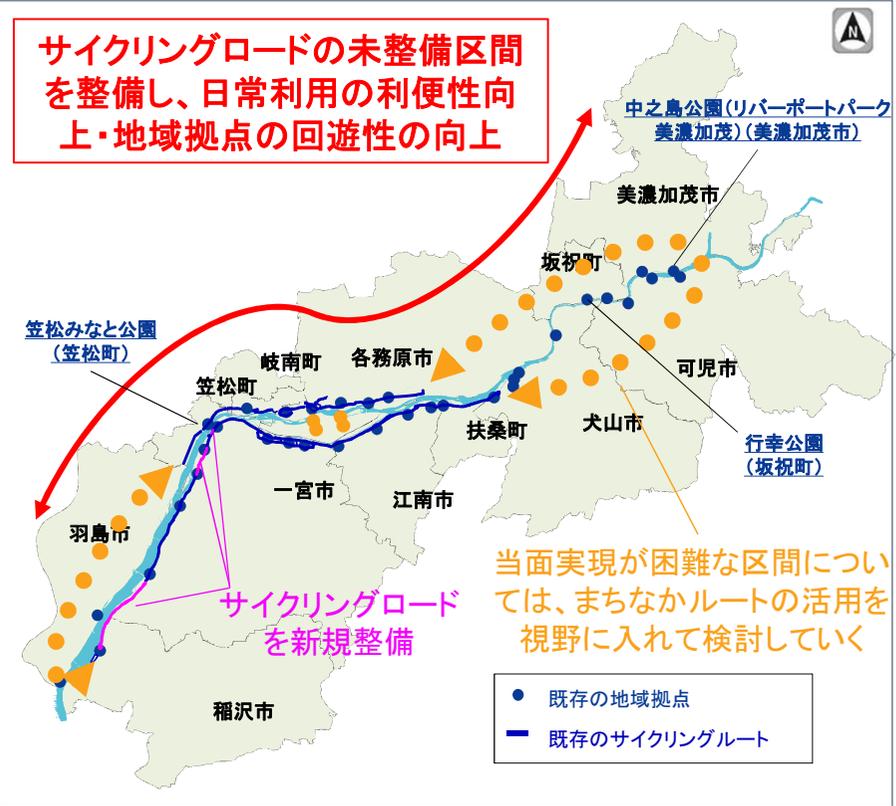
## 取り組み方針と効果

● 木曽川を軸とした魅力向上

	つなぐ (サイクリングコース)	賑わう (地域拠点)	拡げる (連携)
ハード施策	サイクリングロード等の整備	拠点の充実整備	広域連携による案内サイン整備
ソフト施策	広域モデルコースの設定	官民連携・オープン化	連携イベント・広域広報

- 新たな人の流れと交流形成による地域活性化
- 地域住民・来訪客が憩い集う賑わい拠点を創出
- 観光資源として磨き上げ、地域全体の魅力を向上

## 既存の地域拠点の例



ハード施策イメージ (サイクリングロードの整備)

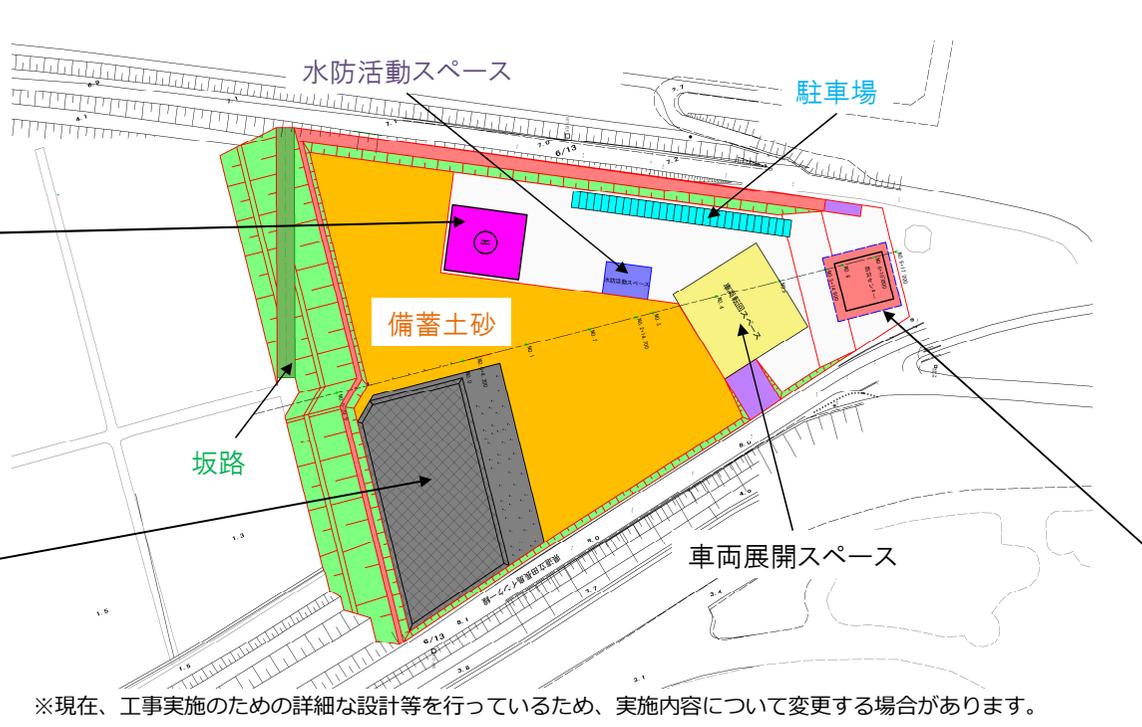
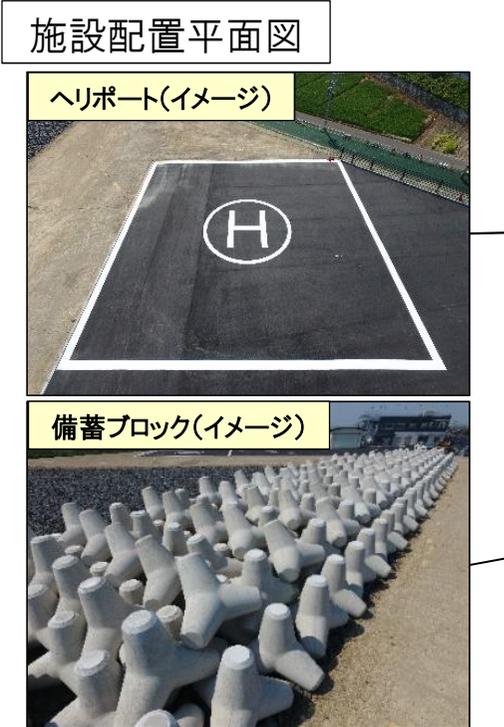
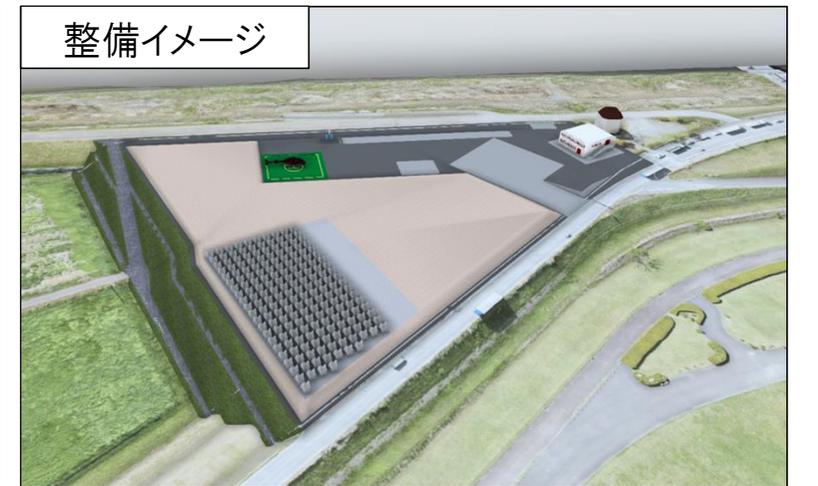


木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり協議会 (R7.2.25開催)



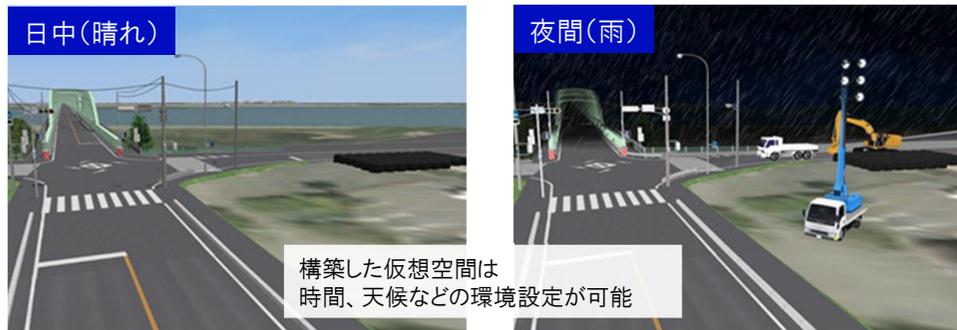
# 木曽川福原地区河川防災ステーション事業について

- 災害時の緊急復旧活動や水防活動の拠点となる施設として、木曽川・長良川（福原地区）において河川防災ステーションの整備を実施しています。
- 緊急用資材の備蓄、駐車場、ヘリポート等の整備と併せて愛西市が水防センターの整備を実施します。



※現在、工事実施のための詳細な設計等を行っているため、実施内容について変更する場合があります。

- 尾張大橋と伊勢大橋は、木曽・長良・揖斐の木曽三川を横断する国道1号の橋梁です。伊勢湾台風を契機に高潮対策が進められていますが、台風以前に整備されており現在の計画高潮堤防高より低い状況です。
- 洪水については安全に流下できる一方で、伊勢湾台風規模の高潮が発生した場合には、橋梁周辺から越波・越水の恐れがあります。
- 有事の際には河川管理者、道路管理者、水防管理者が協議し、国道1号の通行止め、緊急対策としての大型土のう設置を実施するものとしています。この訓練を実施するにあたり、実際に国道1号を通行止めすることは容易ではないことから、仮想空間で緊急対策訓練を実施しました。



## 通行止め訓練



## 大型土のう設置訓練

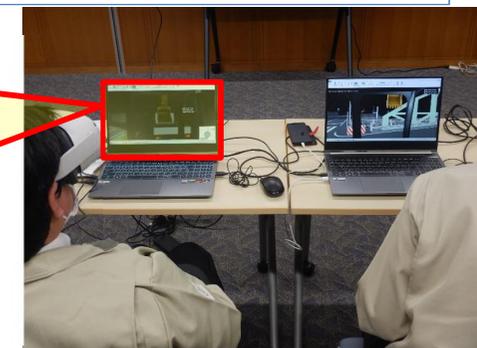


大型土のう設置訓練

尾張大橋橋詰部において、大型土のうの設置訓練を仮想空間にて実施。「大型土のう設置」については、VRゴーグルとコントローラを使って、仮想空間内での作業を体験できる。



バックホウ作業画面



VRによる訓練実施状況

- 河道内の維持管理のために伐採した樹木の焼却等処分に係るコスト削減を図るため、採取事業者を公募により選定し、伐採樹木を「木材資源」として運搬・有効活用していただく取組みを行っています。
- 近年では、採取事業者において木材をチップ化・バイオマス発電に活用するなど、「循環型社会」の構築に向けて有効活用の幅を広げており、引き続き採取事業者のニーズを汲み取りながら取組みを進めていきます。

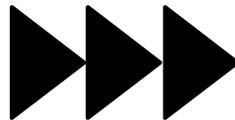
## 伐採樹木の有効活用の取組み



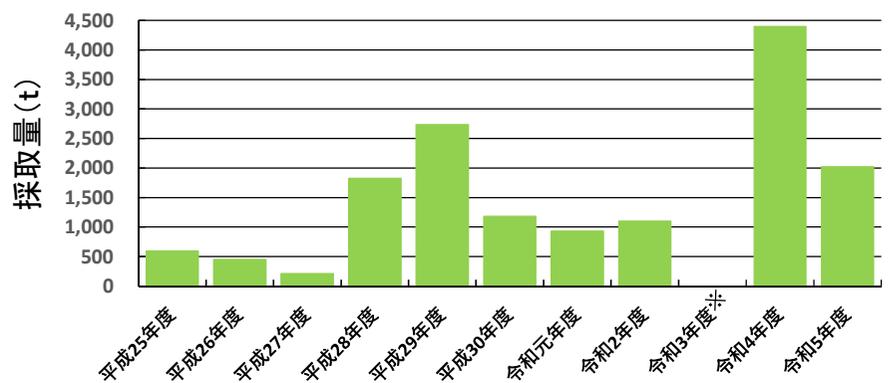
【河川管理者】  
4~6m程度に幹を切断  
(採取事業者との打合せにより決定)

【河川管理者】  
出水時に支障のない川裏側に仮置き

【採取事業者】  
仮置きされた伐採木を積込み・運搬

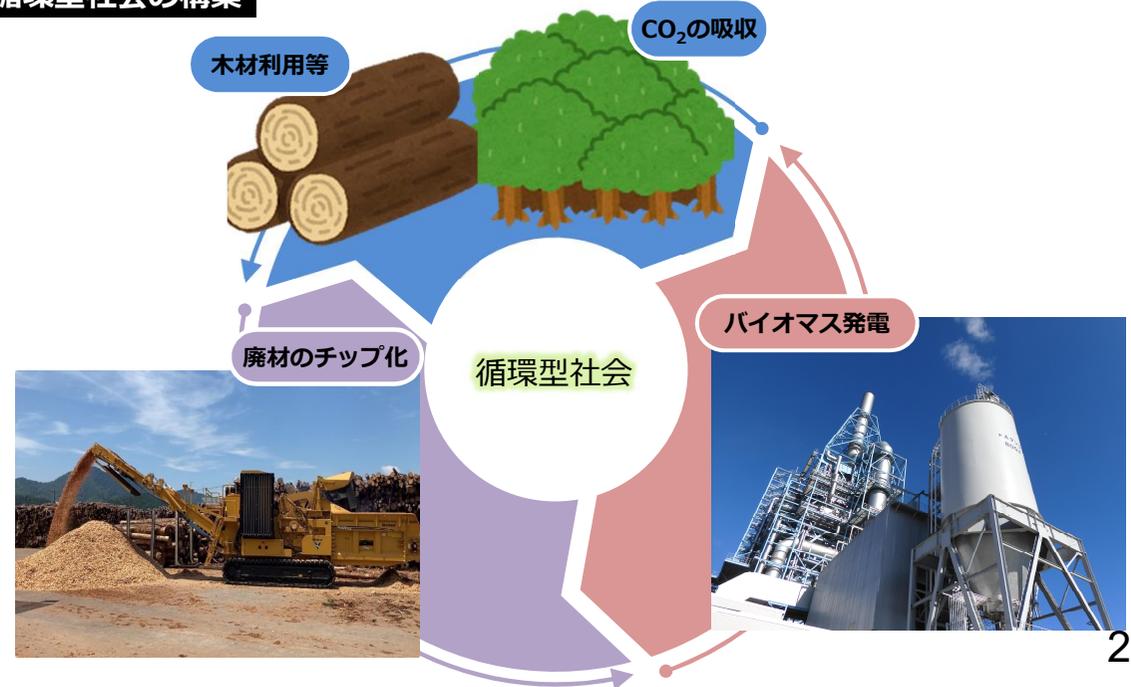


## 木曽川上流河川事務所における公募採取の実績



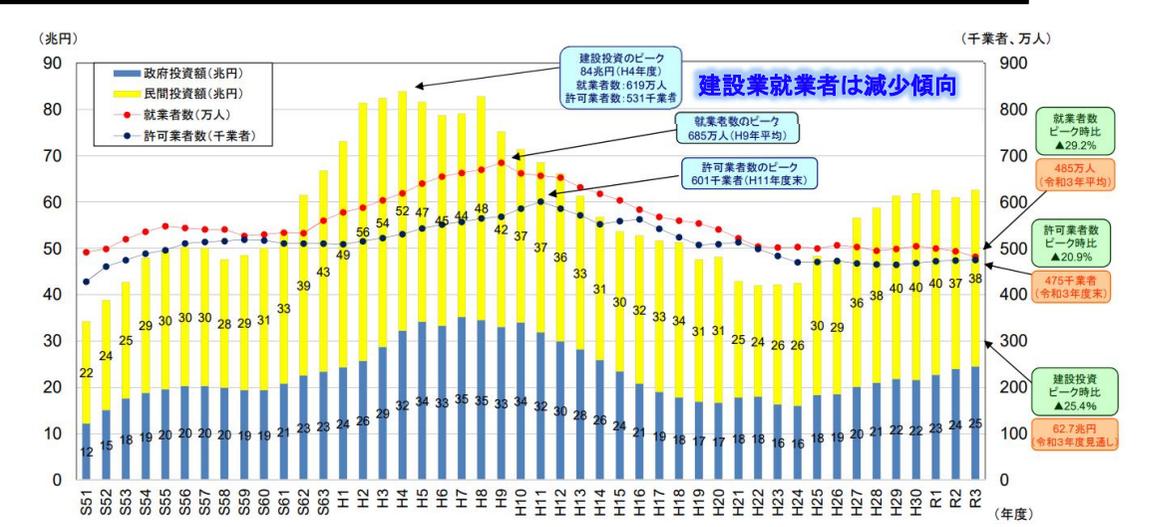
※令和3年度はコロナウイルス感染症予防の観点から実施を取りやめ

## 循環型社会の構築



- 建設業では就業者数は減少傾向にあり、これからの地域の建設業を支えるためには、若手職員の確保・育成が必要です。
- このため、地域の若手職員育成の一環として、異なる分野（発注・設計・施工）の若手職員で意見交換会を実施し、「担い手確保」や「働き方改革」などの観点から、グループで意見交換を行うことで他職種の考えを共有しました。
- 今後も継続的に実施することで他職種との連携・協働体制をより一層強化し、質の高い社会資本整備を推進していきます。

## 建設投資、許可業者数及び就業者数の推移（国土交通省ウェブサイトより）



出典:国土交通省「建設投資見通し」・「建設業許可業者数調査」、総務省「労働力調査」  
注1 投資額については平成30年度(2018年度)まで実績、令和元年度(2019年度)・令和2年度(2020年度)は見込み、令和3年度(2021年度)は見通し  
注2 許可業者数は各年度末(翌年3月末)の値  
注3 就業者数は年平均。平成23年(2011年)は、被災3県(岩手県・宮城県・福島県)を補完推計した値について平成22年国勢調査結果を基準とする推計人口で過及推計した値  
注4 平成27年(2015年)産業連関表の公表に伴い、平成27年以降建築物リフォーム・リニューアルが追加されたとともに、平成23年以降の投資額を過及改定している

## 意見交換会

日時：令和6年 10月 24日(木) 15:00~17:00  
場所：木曽川水系ダム統合管理事務所 会議室  
参加：27名  
(主に河川の発注や設計、施工に携わる20代~30代の若手)

- 発注：木曽川上流河川事務所他 11名
- 設計：岐阜県コンサルタンツ協会 10名
- 施工：岐阜県建設業協会 6名

### 意見交換の様子



### 全体発表の様子



## 意見交換会で出された意見（抜粋）

### ◆今後の建設業の担い手を確保するには何が必要か◆

- 上司の離職で辛い経験をした。上司の悩みや困り事を助け合う環境が必要。
- 仕事の内容や現状を正しく理解・把握した上で業界に入ってきたい。
- 学生への職業説明会等でアピールが必要。仕事内容、楽しさ、キャリアプラン、人生設計・家庭生活など具体的な事を伝え、悪いイメージを変えてもらう。

### ◆建設業界の魅力、日頃の業務のやりがいについて◆

- 東日本大震災など災害を踏まえ命を守る仕事をしたかった。
- 現場を見に行く中で、橋梁などの土木構造物の魅力に気づいた。
- 自分が設計した構造物が完成した時には達成感を覚える。

### ◆働き方改革として行って行きたいこと◆

- 建設業のワークライフバランスは改善されつつある一方で、超過勤務は多い現状もある。
- 組織全体として能力・生産性を向上させる事が必要。例えば、事務業務の職員もCAD研修を受けることで仕事の幅を広げることなど。
- 担当者間の引継ぎがうまくされていないことがあるので、ルール化が必要。

### ◆技術力向上の取組みについて◆

- コミュニケーションをよくとり、上司や熟練技術者、他社や他部署、部下など、様々な方の意見をとりいれている。
- 自分で考え責任を持つことを意識する。自分の采配で仕事を進められるものと受け止める。

- 木曽川上流河川事務所では、DXの取組みの一貫として、令和6年9月よりチャットボットサービスの試行を始めました。
- チャットボットサービスは、河川情報や河川利用の問合せ先等の情報を、時間を問わず選択方式で入手することが可能なツールです。
- 試行結果を踏まえて、今後も効率的な情報取得ツールとなりうるよう整備を推進していきます。

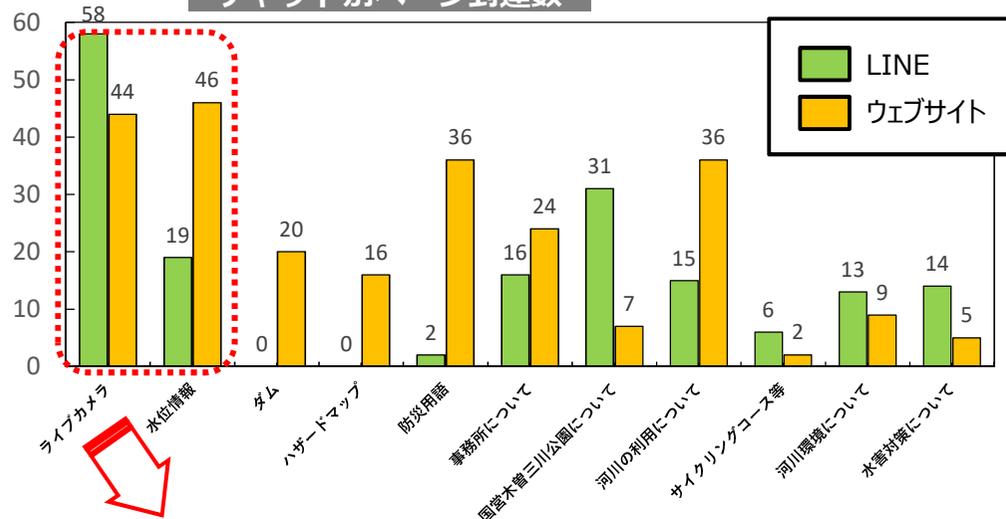
## チャットボットサービス（試行）の目的



## 試行の状況

### チャット別ページ到達数

期間：令和6年9月20日～12月11日



### 「川の防災情報」に移動



- 12月10日現在、LINEの友だち登録者数約650人。（中高年齢層のユーザーが8割）
- ライブカメラ・水位観測所ページへの到達率が高く、出水時の情報取得ツールにもなりうることを期待。

## LINE



## チャットボットサービス (※LINEの例)



## ウェブサイト

